

2020年10月21日

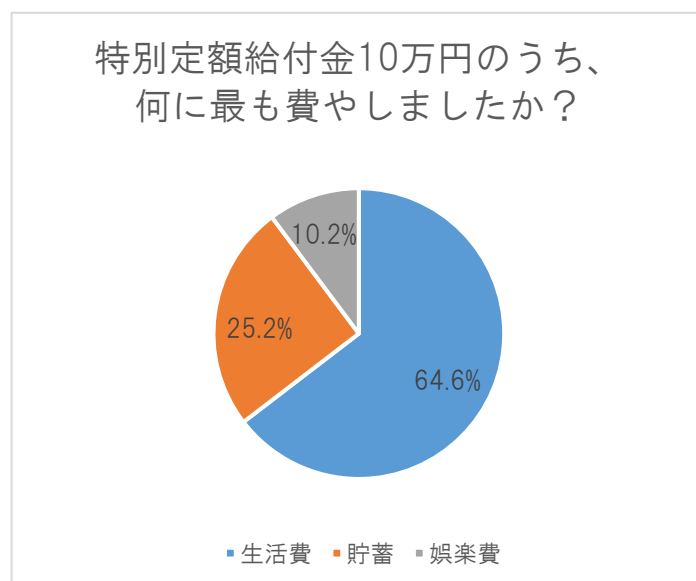
会社名 株式会社ジェイック
 代表者名 代表取締役 佐藤 剛志
 (コード番号 7073 東証マザーズ)

20代・30代求職者向け 特別定額給付金の使い道に関するアンケート 「生活費に使った」という求職者が約65%と最多

当社は、20代・30代の求職者を対象とした、特別定額給付金の使い道に関するアンケート結果を発表します（回答者 926 名）。アンケートの結果、特別定額給付金は「生活費に使った」と答えた割合が 64.6%と最多であり、また、アルバイト・パートの雇用状況については、「解雇、雇い止めにあった」「シフトが減った」の合計が約半数に上るなど、厳しい実情が反映された内容となりました。

＜特別定額給付金 10 万円は「生活費に使った」と答えた割合が約 65%＞

当社サービスに登録した求職者に、特別定額給付金の使い道を聞いたところ、「生活費に使った」と答えた割合が 64.6%と最も高い結果となりました。2 位以下は「貯蓄」25.2%、「娯楽費」10.2%と続いており、多くの人が生活費に使っていることがわかりました。

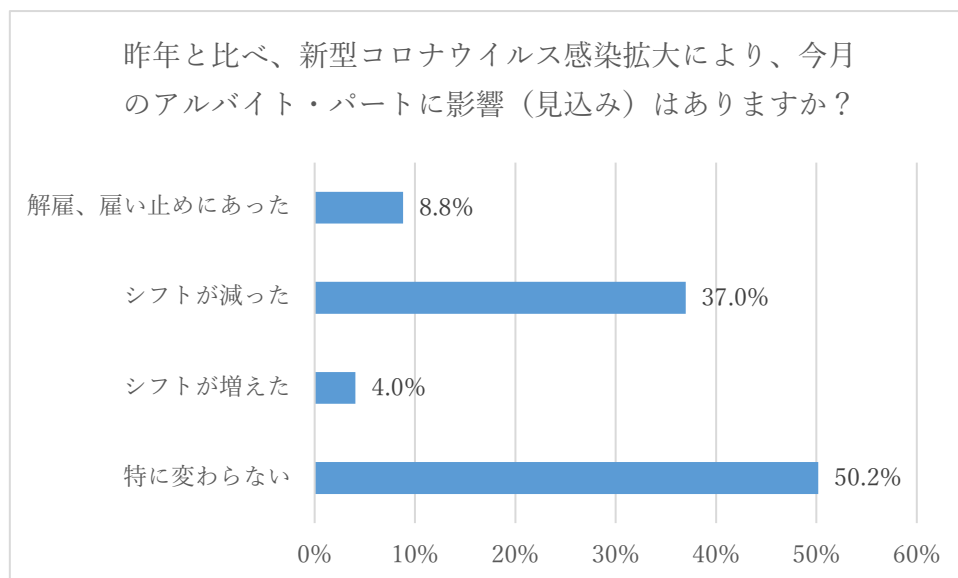


＜アルバイト・パートの約半数が「解雇、雇い止めにあった」もしくは「シフトが減った」＞

厚生労働省によると、2月以降、10月2日までに新型コロナウイルス感染拡大に関連する解雇や雇い止めにあった人は、約6万3千人に上ると発表されています。また、総務省が10月2日に発表した労働力調査によれば、8月の完全失業率（季節調整値）は3.0%であり、7月の2.9%よりも悪化しています。

当社が9月から10月にかけて行った、今年アルバイト・パートで就業していた方を対象としたアンケートでも、「解雇、雇い止めにあった」8.8%、「シフトが減った」37.0%、「シフトが増えた」4.0%、「特に変わらない」50.2%という結果が出ており、「解雇、雇い止めにあった」と「シフトが減った」を合わせると約半数（45.8%）に上る

という、現在の厳しい状況を反映した内容となりました。



【調査概要】

名称 : 特別定額給付金の使い道に関するアンケート
対象 : 当社サービスに登録した 20 代・30 代の求職者
回答者数 : 926 名
期間 : 2020 年 9 月 19 日-10 月 8 日

■『コロナ解雇/雇い止め 119 番』窓口の設置で、就職支援を

当社はこれまで、若年層の就職支援事業を 15 年にわたり行っており、特に既卒・第二新卒・フリーターなどの非正規雇用からの正社員就職に強く、20,000 名以上※の就職支援実績があります。そこで、コロナの影響で解雇や雇い止めにあった方の力になればと思い、『コロナ解雇/雇い止め 119 番』という形で相談窓口を設置しました。電話や Web 面談で就職相談の受付を行い、一人ひとりの就職希望や状況に合わせた就職支援を実施します。（※2005/5/1～2019/4/30 の弊社主催の面接会参加人数）

Web から申込みができる URL : https://peraichi.com/landing_pages/view/jaic119

【お問い合わせ先】

株式会社ジェイック 担当：稲葉

E-mail : info@jaic-g.com テレワーク実施中のため、メールでのご連絡をお願い致します。